

令和6年度 第2回学校関係者評価委員会 議事録

日時：令和7年2月20日（木）14：00～15：15

会場：5階 カンファレンスルーム

学校関係者評価委員 出席者

- A 委員長：誠英高等学校 元教頭
- B 副委員長：山口県看護協会 会長
- C 山口県介護福祉士会 会長
- D 看護学科実習病院 看護部長
- E 介護福祉学科実習施設 理事長
- F YIC 看護福祉専門学校 看護学科学生家族

欠席者：

- G YIC 看護福祉専門学校 介護福祉学科学生家族

教職員出席者

- H 校長
- I 副校長
- J 副校長
- K 事務長
- L 看護学科学科長
- M 介護福祉学科学科長
- N 書記：社会福祉士通信課程教員

I. 校長挨拶

看護学科3年生と介護学科2年生は国家試験が終わり、卒業式前である。両学科とも志願者が減少している。外部からの意見を学校運営に活かしたい。

II. 報告・議事

K：資料の確認。議事録作成のため、内容の録音の許可を得る。学校関係者評価委員会規定第6条3項により、A委員長が議長に選任される。

1. 令和6年度学校関係者評価委員会報告 資料I-1

学校自己点検・評価表、評価項目の評価結果 資料I-2

A：議事の進行を行う。

I：資料I-1とI-2に基づいて説明を行う。

(資料 I - 1)

I 令和 6 年度学校関係者評価委員報告

第 1 回と第 2 回の会議内容が報告された。山根委員が欠席であることが報告された。

II 令和 6 年度重点項目への取組

学生募集については、昨年度から出願者が減少しており、オープンキャンパス等の内容を見直し、学生募集を進めた。看護学科は、県内の大学に看護学科が新設された影響で、本校を第一志望とする学生が減少している。令和 7 年度入学生を対象に、入試区分を問わず特待生制度を導入した。SNS を活用した広報活動を強化した。介護福祉学科は、福祉人材の確保が難しい状況に対応するため、留学生の確保を目指し、日本語学校への訪問等に取り組んだ。

教育内容の充実については、両学科で国家試験対策を強化した。教育の質の向上を目的として、ディプロマポリシーに沿ったカリキュラム編成を行い、シラバスの改善を進めている。3 年ほど前からコマシラバスを整えており、昨年度より今年度の方が作成は進んでいる。

学生支援の充実については、年間計画を立て、学生が施設や病院を選んだ理由を自分の言葉で説明できるようにキャリアサポートを進めた。看護学科では就職試験が早まっており、7 月、8 月までにキャリアサポートを終了させるように進めている。学力の低い学生や留学生に対し、学習支援を継続して行った。積極的な社会貢献活動として、児童養護施設への訪問や、小・中学生を対象とした福祉体験などを実施。地域の自治会と共催で地域ふれあい祭りに参加し、学生が血圧測定やレクリエーションを行った。学校周辺の自治会との交流を目的としたイベントを 3 月に開催予定。

III 令和 6 年度学校自己点検・評価

(学校自己点検・評価の実施) 全国専門学校教育研究会の自己点検・評価表を使用し、今年度は改訂版を用いて実施。C (第三者評価に取り組む学校) という新たな項目を加え評価を実施。教職員 19 名が評価者として参加し、1 ヶ月間評価を実施。

(評価結果) すべての大項目の評価で平均 3.5 以上を示している。項目のうち評価が 3.5 未満は 3 項目あり。(コマシラバス作成、資格取得、社会的評価)

(大項目の評価の根拠、課題と対策)

学校運営については、教職員の能力開発や資質向上を目的とした研修を実施しているが、組織全体での共有が十分ではないため、研修報告等を積極的に行い、組織力向上につなげる。

教育活動については、カリキュラム改正から 3 年が経過したが、コマシラバスの充実が十分ではないため、年度内に完成を目指す。教育力向上室の職員による授業実践や、経験年数に応じた授業展開の実施、新規教員への授業作成支援などが行われた。

学習成果と教育成果については、国家試験合格率 100%を目指し、育成人材像や実習目標に沿った評価を実施している。卒業生の国家試験合格率や在校時の成績推移のデータを基

に、対策を立て、1ヶ月ごとに評価を行っている。国家試験の合格率を社会的評価としてアピールしていくために教育の質向上に努めたい。卒業生の就業状況を把握するため、アンケート調査を実施している。卒業後1年目のホームカミングデーを実施し、卒業生が抱える悩みや成長を把握している。離職防止のため、卒業後1年間に力を入れているが、その後の追跡調査は実施していない。

学生支援については、休学や退学を最小限に抑えるため、学生情報の把握や共有、家族を含めた支援の実施などを行っている。

学生の受け入れ募集については、出願者が激減している中で、総合型選抜を実施し、意欲の高い学生を確保しようとしている。

教育の内部質保証システムについては、自己評価フォームの見直しや本部ヒアリングを実施し、学校運営に活かしている。

社会貢献・地域貢献については、地域貢献の範囲を広げ、学生も巻き込んで積極的に参加している。

IV 令和7年度の重点項目

大項目の変更はなし。内容の充実を図る。

(質疑応答)

E: 看護学科の高校卒業後の進路として、大学への進学を希望する学生が多いとのことだが、地元の専門学校より都会の大学志向が強いのか。

I: 県内の公立大学の看護学部設立に伴って、そちらに高校生が流れている。専門学校の良さを伝える必要がある。

H: 高校の進路指導でも大学を進める傾向にある。

議事の承認：全員一致にて承認

2. 令和6年度在校生アンケート結果 資料II

J: 2024年度専門学校 YIC グループ学生アンケートの結果報告を行う。

<看護学科>

入学前に期待していたことは、資格取得、将来なりたい職業に就ける、専門知識が学べるの3点。YICを選んだ理由は、資格取得、就職、専門知識の3点。学校生活や就職については、イベントの充実度が改善傾向にある。YICに入学して良かったと思わない学生が約3割。家族や友人にYICを勧めたいと思わない学生が約5割。学校全体への満足度は課題が残る。

<介護福祉学科>

ほとんどの項目で95%以上の学生が満足している。授業、学校生活、就職についても約9割の学生が満足。

自由記述では、教員に対して圧力を感じている学生がおり課題である。また、パソコンが

古いという意見があり、次年度にパソコンを購入予定。その他、教員への意見、授業・学校生活への意見、就職についての意見、学校設備への意見など様々なあり、改善に向けて取り組んでいく。

議事の承認：全員一致にて承認

3. その他

A：専門学校と大学で看護師の資格を取るという最終的な目標は同じであるが、大学で看護を学ぶ期間は4年、専門学校は3年であり、専門学校の3年間はタイトであるというイメージがあるかもしれない。背景に小中学校での詰め込み教育への反発があるのではないか。

I：カリキュラム改正に伴い、教育内容が増加しており、予想以上に大変だと感じている学生が多い。特に学習習慣がついてない学生にとっては厳しい。

H：3年で学ぶには厳しいカリキュラムであるが、模擬試験の平均は大学より上位であり、教育効果はあがってきている。しかし、成績下位の学生を合格させるノウハウが不十分であり、国試の合格率に反映されていない。

B：在宅医療などカリキュラムに入れていくことで3年制が負担を負っている。実践力をつけるには専門学校が適しているし、大学では保健師、助産師、養護教諭の資格が取得できるという違いがある。医師不足を背景に、看護師に求められる役割の範囲が広がっており、看護教育のカリキュラムが移行期にきている。専門学校の学費が高くなっており、公立大学の学費の安さも影響しているのではないか。

D：遠方に実習に行く学生へはどのような支援をしているのか

L：実習開始時間の繰り下げ、タクシーの活用など行っている。学生の希望を聞き、自宅から近い病院をなるべく選べるよう配慮している。

B：県内公立大学の看護学部設立に伴って、実習先の不足は更に深刻になる。特に母性・小児の実習場所が少ない。

D：卒業生の追跡調査を今後どのようにやっていくのか

I：同窓会組織を活用することを検討している。1年以内の離職だけでなく数年後の状況も把握したい。卒業生や職場の上司へのアンケートを実施し、職場環境やニーズを把握したい。

H：同窓会の組織運営やイベント開催など、様々な方法を検討する必要がある。

F：国家試験を無事終えることができた。先生方や同級生に感謝している。

C：卒業生の動向把握について、養成校が情報収集するのは限界がある。同窓会組織に役割を持ってもらうことで、卒業生との繋がりを維持できるのではないか。

I：介護福祉学科はほとんどが県内就職であり、つながりが強い。看護学科は県外就職が3割程度おり、全体把握は難しい。同窓会を活用して、方法を工夫していきたい。

会議の終了